番頭「ワツ。明りがさして來た。モウ間にあはん。サア寝た振して鼾かき……グウ……グウ……」杢平「グウ……グウ……」御寮人「何故(なんで)こないに騷がしいのやろ……オ、いやゝの。天窓の紐が井戸の中へ下つたアるわ……マア〳〵吃驚したやノ。貴方久七や無いか。井戸の中で紐にブラ下つて、何をしてるのや」久七「御寮人さん。是れはチョツト西瓜の身振りでムります」御寮人「阿呆らしい。上られしまへんねやろ、仕樣む無い事するさかい夫れ見なはれ。待つてなはれ、今お店の人に上げて貰ふたげます……チョツとお店の……まアどないした事や、お店はスツカリ總出や無いか……此處に居るのは番頭はんと杢平どんやワ……マア膳棚擔げて鼾かいて……貴方等何をして居なはるのや」二人「ヘエ。宿替への夢を見て居ります」

話の中に出る方言の註解

前垂れ（前掛け）
御寮人さん（奥樣）
箸まめ（女さえ見れば手を出す事）
貴女途方も無い別嬪さんや（とおない又はとおらいと發音する、得も云われぬと云ふ意）
油とる（油を賣る）道草食ふ事。
口入屋（桂庵）雇入照介業者

如才おまへん（懸引はしません）
セチベン（貸し惜しむ）世痴吝？
見勢附き（張り店）
どんぶり（孑孑）ぼうふら、蚊の幼虫
内娘（家附きの妻）
おタメ（贈り物に對する感謝の意を含む祝儀）
あだて（確とした日適(あて)）
ボコペン（滅茶々々）支那語不好不心(プハオプシン)の片言？

ヘチヤ（不容貌な女）
顔で切て見せる（感情を顔に表はす）
だんない（拘はぬ）大事無いの轉訛）
かめへん（右同）拘ひはせんの略
大(いつ)かい（大きい）京都特有の言葉、大阪では用ひない
テレる（間の惡ひ思ひをする）
ゴロ〳〵の戸（二階へ昇り切つ個處の、階段の反對側から水平の戸を引き出して、階下と遮斷する。戸の兩側の下面に小さな車(こま)が附けて有り、ゴロ〳〵と音がするので、此稱がある）
きやま（薪棚）町家では大てい夏期に一年中の薪炭を購ひ込で置く、濕氣を避ける爲め二階の庭に面した方に積み重ねてある、此場所をきやまと云ふ
膳棚（往時は一人宛別々の箱膳で、食事を終ると、各自の食器を膳の中に納めて、臺所から、庭へ突き出した棚に並べて置く。俗に釣膳棚と云ふのは、頑丈な腕木で柱に打ち附けて有たもの。

天窓の紐（採光の爲、普通井戸の眞上に幅瓦三枚分、長瓦四枚分位の長方形の窓を明け、是に雨の降り込むのを防ぐ爲めに油障子と戸が二重に閉まる樣に成て居る。屋根の傾斜に副ふて簡單な敷居が打ち附けてあつて、これに嵌まつた戸や障子の自重で窓が開く。閉める際は下から紐を引張ると、紐はクル卷きを通て戸障子に取り附て有るので窓の處まで上つて來る仕掛に成て居る
手燭（手に持つ樣に、横に柄の附いた燭臺）

旭屋
旭屋